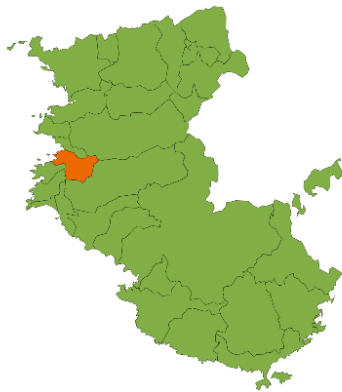


## 和歌山県有田郡広川町

### ツギー谷のお花畑の活用を通じた

### 津木地区の活性化を考える



#### 【活動の基本情報】

参加学生数：9名（1年生：1名、2年生：2名、3年生：6名）

活動期間：2014年6月～2022年1月（LIP地域公募）

2022年4月～（L活）

#### 1. 活動実施の経緯

広川町津木地区の魅力である豊かな自然資源や、津木地区寄合会が生産している加工品を活かしながら、寄合会の活動拠点である「ツギー谷のお花畑」を軸とした津木地区の活性化を目標とした活動を2014年から継続してきた。

#### 2. 活動の内容

現地訪問、和歌山市の市駅“グリーングリーン”プロジェクトへの出店、週一度の会議を実施した。

#### 3. 活動を通じて

広川町の山間部に位置する津木地区は魅力的な農業資源や美しい自然資源を有する地域であるが、過疎化や少子高齢化の進行を原因とした多くの課題を抱えている。私達はそれらの課題を解決し、津木地区の魅力を広めるため、2014年より、寄合会の方々と協働しながら「広川LIP」として活動してきた。

今年度はこれまでの「花畑を軸とした活性化」というコンセプトを変更し、マーケティング論を活用した「露あかね（スモモと梅の交配種、広川町の特産品）」の販売促進を目標として活動を行った。週一度、90分程度のミーティング・勉強会を行い、マーケティング論について理解を深めた。これは、これまでの「リーダーの代ごとに活動内容の方向性が変わってしまう」「直感的なアイデア・活動予定を基にした活動実施」、「お花畑の維持管理に携わることは難しい」といった反省を踏まえた新たな活動であり、広川LPPが明確な目標・方向性を持った活動を実施するためのものである。マーケティング論の活用に関しては難しい面も存在するが、3回生がゼミで得た知識を活用しながら、主体的な勉強会を実施することが出来た。

一方で、こうした学びの成果を地域の中でどのように還元できるかが課題であり、今後の活動のあり方については、地域の意向も踏まえながら検討したい。

## 4. 成果ポスター

### ★広川町LPPの概要★

広川町津木地区の「魅力発見・発信」を目的に活動。2014年から活動し、今年で9年目。

昨年度まで津木地区の「お花畑」の活用をテーマに活動。今年度は、地域の方との話し合いの末、広川町の特産品である梅とスモモの交配種「冷凍つゆあかね」のマーケティングに方向性を転換。現在毎週学内で会議を行っている。



▲つゆあかねの開封前後。美しい紅色と甘酸っぱい味が特徴。ハートのパッケージが魅力。

### ★会議★

毎週会議を行った。会議内容は、主にマーケティング学習、それを基にした、「冷凍つゆあかね」のマーケティングである。基本的知識の習得からはじめ、現在、今後の活動土台をつくるまでに至っている。

### ★GGP★

今年度も、和歌山市駅グリーンプロジェクトに参加。つゆあかねジャムの売れ行きは好調。来年は多商品の売り上げ向上を狙いたい。

# Hirogawa LPP



### ★現地訪問★

今年度は2回現地訪問を実施。第1回では、ツギ谷のお花畑で苗植え・種まきを行い、第2回では、地域住民の方々とコミュニケーション機会を頂いた。地域により密着した活動を目指したい。

### ★課題点★

課題点として2つ。まず、耕作放棄地問題。そして、鳥獣被害問題。この対応が今後の課題として挙げられる。いずれも全国の農山村を取り巻く問題であり、広川町も例外ではない。



▲会議の様子。空きコマに集まり、冷凍つゆあかねのマーケティング・販売について模索している。



▲広川町に咲いていたアジサイ。広川町には様々な花が咲いている。

### ◎今後の展望

お花畑の持続・発展を視野に入れつつ、花に関する知識をさらに取り組むことを目標に。加えて、現在取り扱っている、「冷凍つゆあかね」を、マーケティングの観点から徹底的に分析、実践していきたい。

## 合同報告会 当日の様子

和歌山県有田郡広川町

テーマ：ツギー谷のお花畑の活用を通した津木地区の活性化を考える

広川 LPP からは、2 名で合同報告会に参加させていただきました。当日は多くの方に私達の発表を聞いていただき、広川町の魅力や私達の活動について深く知ってもらうことができたと考えています。広川 LPP は今年度をもって活動を終了しますが、集大成として多くの方々の前で成果を発表できたことはとても有意義なことであったと思います。他ブースの発表についても、すべてのグループの発表がとても質の高いものであり、私たち自身も勉強になりました。LPP の活動を通して得た



経験・知識はこれからの様々な場面において役立つものであると考えています。

各ブースについては、それぞれが聴き手に対して、それぞれが「伝える」ための工夫を凝らしており、発表者、聞き手双方にとって有意義な時間になったと考えています。